

JOHNAN VISION 2050

一人ひとりの希望を実装してまわる。



- 02 STORY ーおばあちゃんの誕生日ー
- 06 コンセプト
- 08 MESSAGE
- 10 JOHNANが目指すビジネスモデル
- 12 JOHNAN理念体系
- 13 JOHNANレゾンデートル(存在理由)
- 14 JOHNAN VISION 2050
- 15 JOHNAN MISSION 2050 一未来の製品 一
- 16 もう造っています「未来の製品」
- 18 JOHNAN MISSION 2050 一未来の工房一
- 19 もう始めています「未来の工房」
- 21 JOHNAN MISSION 2050 未来の案内人-
- 22 もう活躍しています「未来の案内人」
- 24 「JOHNAN VISION 2050」策定プロセス
- 26 PROJECT MEMBER

おばあちゃんと青年は、毎日のように、 仮想空間上で話をしている。 でも、おばあちゃんは地球、 青年は月面にあるものづくり工房で働いていて なかなか直接会えないのが残念。 「おばあちゃん、そういえば、もうすぐ米寿だよね?」 「そうよ。私が還暦のときだったかしら、 あなたが生まれたのは。 時が経つのは本当に早いわねえ。 次の誕生日にはリアルで会いたいわぁ。」 「おばあちゃん、それいいね、 その日に直接会おうよ!」 そんなことを話している。

今日のふたりの話題は、 おばあちゃんの誕生日プレゼントについて。 思い出話にも花が咲く。

初めて幼稚園に通ったあの日も、 レインツリーの下でお弁当を食べた日も、 いつもおばあちゃんが一緒にいてくれた。

「あなたとの思い出を、プレゼントに詰め込めるかしら。」

ふたりでそう言って笑い合う。





「プレゼントには最新のテクノロジーを詰め込みたいな。」

青年はエンジニアとして、 自分が携わる仕事やテクノロジーについて語る。

「海底でも、宇宙空間でも、最近はいろいろな研究が行われているのね。 あなたと話していると、楽しくてあっという間に時間が経っちゃう。」

おばあちゃんは、青年の話にワクワク、ドキドキ。

「おばあちゃん、 プレゼントの素材はレインツリーでどう?」



「製造で使うエネルギーは、 あの日、あの場所に降り注いだ太陽の光を選びたいわね。」

「プレゼントの組み立てと仕上げは、 地上のどの工房で作ろうか。おばあちゃん選んで。」

「わたしが選んでいいの? どうしよう、迷っちゃうわ。」

想いを汲み上げて、思い通り組み上げ、 仕上げてくれる。 できれば、自分たちも一緒になって工房で作りたい。

おばあちゃんと青年は、 そんな願いを叶えてくれる会社を 探してみることにした。

そして、おばあちゃんの誕生日――。





一人ひとりの希望を実装してまわる。

JOHNANが存在する理由。 それは、子供達の世代が希望をもつ社会を、

過去から現在、そして未来へと、いかなる時も造り続けること。

誰もが差別されることなく公平に機会が与えられ、 自らの意思と責任で選ぶ自由が尊重される社会。 大自然や人間同士が博く愛しあう社会。

そんな社会を造り続けるためにJOHNANは、 人の数だけ存在する夢や希望に寄り添い、受けとめ、 ものとしてカタチにすることで、実装してまわる。

プリント基板にはんだ付けで電子部品を組み込むように、 JOHNANの原点である実装は、次のステージへ向かいます。 これが2050年までに実現したいJOHNANの姿です。

希望を実装するために、JOHNANがすべきこと。

想いをカタチにする「未来の製品」を届け生かす。 お客さまの「こんなものが欲しい」「あんな体験をしたい」を叶える。 完成した製品がいつまでも愛され、役に立ち、時に再生されるように。

月面から海底まで「未来の工房」を造りつなぐ。 想いをカタチにするために、個性豊かな工房達が集い、つながる。 知見を集結し組み合わせることで、どんな製品も造ることができる。

ものづくりを先導する「未来の案内人」を育てふやす。 何よりも重要なのが、お客さま一人ひとりの想いを聴くこと。 想いをカタチにする工房を見つけ、最高のチームを造り上げる。 そして、完成までの道のりを案内人として、お客さまと共に歩むこと。

これらを実践することで、

2050年、私達JOHNANは同じ志をもつ仲間と共に、 お客さまの身近な存在として、世代や空間の制限を超えて、 「一人ひとりの希望を実装してまわる。」ことを宣言します。





語り合いましょう。 そして、共に造りましょう。 子供達の世代が希望をもつ社会を。

代表取締役社長 兼 CEO

山本光世

皆さん、ご注目ください。

私達JOHNANは、JOHNANが2050年までに造り上げたい世界を、渾身の想いを込めてこのビジョンブックで表現しました!このビジョンブックが、JOHNANのものづくりの未来そのものを体現しています。

なぜ、これを造ったのか? その目的は、このビジョンブックを道具として活用し、私や当社グループの各社員が皆さんお一人おひとりと、「子供達の世代が希望をもつ社会を造り続ける」ために、ご一緒にどのような取り組みができるかについて、話し合いたいからです。そして、その話し合いを経て、自然な形で共創できるところから行動を起こし、生まれた結果を共に振り返り、次のステップをまた話し合う。このようなサイクルを積み重ねることで、子供達の世代が希望をもつ社会の実現に、大きく貢献すると確信しています。

さて、このビジョンブックを造るにあたって、心掛けたことが4つあります。始めに、私一人で造ったのではなく、JOHNANの社員達

と共に「JOHNAN VISION 2050」を策定したことです。それは、 偶然出会ったアフリカのことわざ「早く行きたければ、一人で進め。 遠くまで行きたければ、みんなで進め」に励まされたからです。ま た、志を共にする仲間と考えて行動することは、創業以来60年間 にわたって実践してきた「JOHNANらしさ」であり、当たり前のこと でもありました。共に策定した結果、ビジョンが共有され、信頼でき る仲間の存在を再確認できました。この素晴らしい仲間達に心か ら感謝の気持ちでいっぱいです。

第二に、対話を促す表現を用いたことです。このビジョンブックは手描きの絵から始まり、JOHNANが2050年までに造り上げたい世界を紹介しています。これにより、私や社員達それぞれが語り手として、語り手らしい視点で、自分の言葉を添えてその世界を紹介することができます。また物語の聞き手は、その絵を見ながら心に湧き上がる感覚や素直な感想、共に試してみたいことを語り手に伝えるきっかけを造ることができます。

第三には、JOHNANにおける経営の軸を整えたことです。具体的には、「JOHNANらしさ」を念頭に、私達の存在理由(Why)を

示す「JOHNANレゾンデートル」、2050年までにどこを目指すのか(Where)を示す「JOHNAN VISION 2050」、ビジョンの実現に向けて何を行うのか(What)を示す「JOHNAN MISSION 2050」を理念体系として定めました。加えて、グループ経営における戦略の立案や各事業を評価する際に、一般的に用いられる収益性や成長性といった軸に加えて、ミッションの達成度合いを測る重要目標達成指標(Key Goal Indicator)を示す「KGI」を設定し、2050年に目指す姿との適合性という独自の軸を打ち立てました。

最後に心掛けたことは、ビジョンの実現可能性を感じていただくために現場の挑戦を刻んだことです。ビジョンを造り出す過程において、世界と日本におけるものづくりの歴史からルーツを紐解いたり紡いだりしながら、創業以来60年間にわたって培ってきたJOHNANの特徴を再解釈しました。その結果、地に足のついたスタートアップアクセラレーションに関するJOHNANの強みが、ビジョンの実現やSDGsを掲げる社会に対して、お役に立てると強く認識しました。最適化社会から自律社会に向かう産業革命期にあたって、産業の垣根を越えたオープンイノベーションの需要はます

ます高まるため、JOHNANに期待される役割は極めて大きくなることでしょう。そのような考えの下、JOHNANの現場で実施されている12の挑戦事例を、ビジョンの実現に向けた行動の証(あかし)として記載しました。

結びとして、現在のJOHNANにおける経営トップ及び長期的な安定株主の一人として、私は「JOHNAN VISION 2050」を必ず実現する決意をここに表明します。2050年に至る時間は長くも短くも感じますが、私はその頃77歳を迎えています。それまでの間は当然のことながら、自らの天寿を全うできるように必要となる心身の健康を保ち、怠けることなく自己研鑽に励み、謙虚さと感謝の気持ちをいかなる時も育み、自らの天職を一生懸命に全うします。私はどのような立場や役割であれ、JOHNANとつながり、ビジョンの実現に必要な仕事を担い続ける決意ですので、今後とも皆さまからのご指導とご支援をよろしくお願い致します。

さあ、ご一緒に何から始めましょうか?



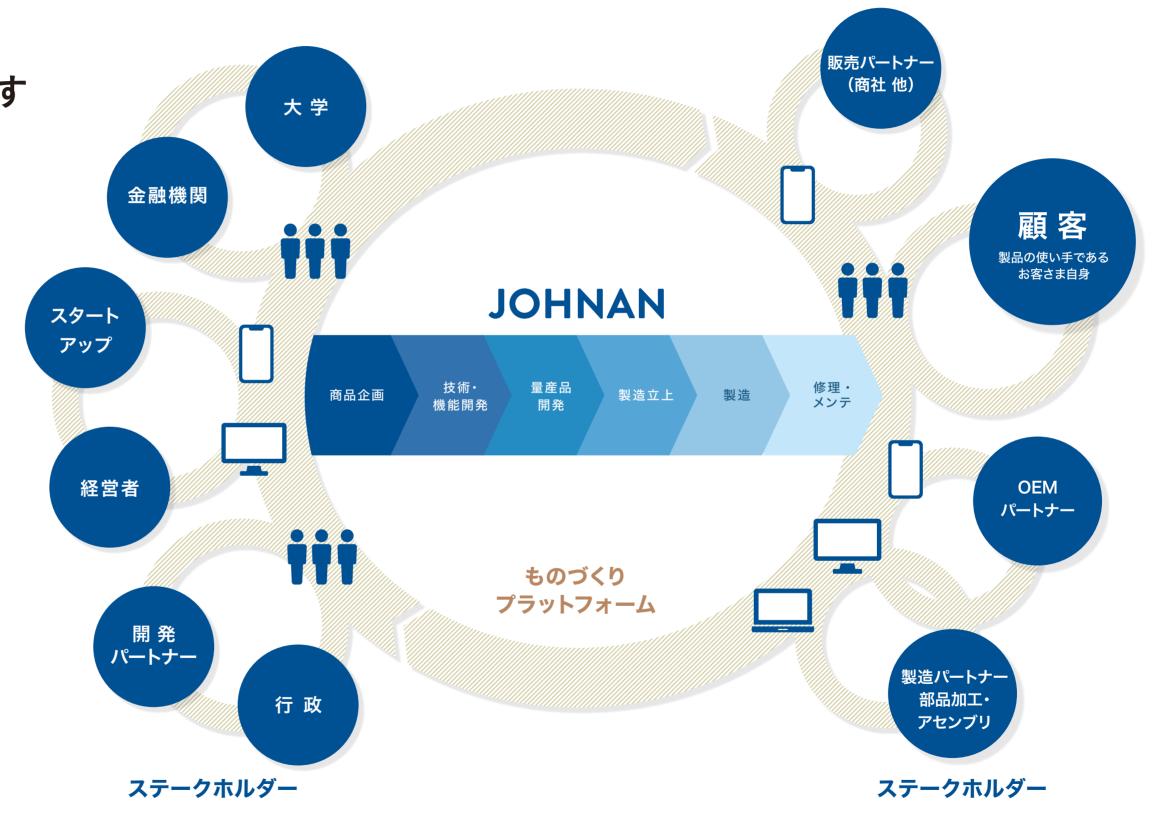
JOHNANが目指す

ビジネスモデル

ビジョン策定を通じて見出した、地に足のついたスタートアップアクセラレーションに関するJOHNANの強み。その強みと策定した「JOHNAN VISION 2050」に鑑み、当社グループ全体としてのビジネスモデルを「ODM(受託開発)・EMS(受託製造)」型から「ものづくりプラットフォーム」型へ進化させることにしました。もちろん、ものづくりプラットフォームにおける重要な機能の一つとしてODM・EMS機能をこれからも加速的に強化しますが、特筆すべき進化の方向性は、多様で卓越したものづくりサービスが提供される場を強化することです。

これから私達は、2022年10月に当社グループ内に新設した「ものづくりプラットフォームカンパニー」を先導役として、2023年4月からスタートした中期経営計画を実行し、当社グループ全体としてのビジネスモデルを「ものづくりプラットフォーム」型へ進化させます。そして、そのプラットフォームは、製品の使い手であるお客さまご自身が、ものづくりのプロセス自体にも参画参加することを軸として運営していきます。

つまり、お客さまには「Made in Japan」でも「Made by 特定企業」でもない、お客さまご自身が私達と共にものづくりを行う「Made with JOHNAN」という価値を提供するビジネスモデルとなります。どうぞ、これからのJOHNANにご期待ください。





JOHNAN理念体系

「JOHNAN VISION 2050」の策定を機に、

JOHNANが未来に向かって歩む方向性を理念体系として明文化しました。 社員一人ひとりがこの想いを胸に刻み、共に未来に向かって歩んでいくことで、 子供達の世代が希望をもつ社会を造り続けます。



「かこむ・みる・つくる」ことで、 子供達の世代が希望をもつ社会を造り続ける。

JOHNAN VISION 2050

一人ひとりの希望を実装してまわる。



想いをカタチにする 「未来の製品」を 届け生かす。

→ P15-17

月面から海底まで 「未来の工房」を 造りつなぐ。

→ P18-20

ものづくりを先導する 「未来の案内人」を 育てふやす。

→ P21-23

重要目標達成指標(KGI)

未来の製品 1,000種類

-個人向け: 7割 法人向け: 3割 未来の工房 **1,000工房**

自社内工房:3割 共創先工房:7割 未来の案内人 1,000人

経営者 : 1割 リーダー: 9割

2022年6月策定



RAISON D'ETRE



「かこむ・みる・つくる」ことで、 子供達の世代が 希望をもつ社会を造り続ける。

レゾンデートルに込めたJOHNANの想い

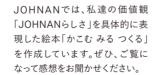
「かこむ・みる・つくる」とは、創業以来、 JOHNANが守り育んできた価値観であり、「JOHNANらしさ」です。

「かこむ」とは、社内外を問わずに語り合い、 お互いを尊重し責任を果たすこと。 「みる」とは、人間や宇宙を広い視点でみつめ、 個人や組織の使命を見出すこと。 「つくる」とは、魂と祈りを込めて、まだ誰もやっていないこと、 新しい価値を造ること。

こうした「JOHNANらしさ」を用いて、 私達は、子供達の世代が希望をもつ社会を造り続けます。

子供達の世代が希望をもつ社会とは、どのような社会でしょうか? それは、誰もが差別されることなく公平に機会が与えられ、 自らの意思と責任で選ぶ自由が尊重され、 大自然や人間同士が博く愛しあう社会です。

JOHNANは、孫や曾孫、その先の世代も考慮しながら、 子供達の世代が直面する課題の解決に、挑み続けることを宣言します。











VISION



一人ひとりの希望を 実装してまわる。

子供達の世代が希望をもつ社会を造り続けるために、 一人ひとりの希望を実装してまわる。 2050年に向けてJOHNANが目指すことです。

「一人ひとりの希望」。

それは、この世界で生きる人々がもつ想いや願い、夢のこと。

一人ひとりの「希望」に寄り添い、カタチにして、

くらしの中に組み込んでいくことが「実装」です。

JOHNANは、プリント基板にはんだ付けで電子部品を組み込む、

「実装する会社」としてスタートしました。

小さな電子部品を一つ一つ丁寧にはんだ付けしたように、

人のもつさまざまな想いをカタチにし、くらしの中に組み込んでいく。

世界中の一人ひとりの想いに寄り添い、実装してまわる。

そんな企業に、JOHNANはなりたいと思います。

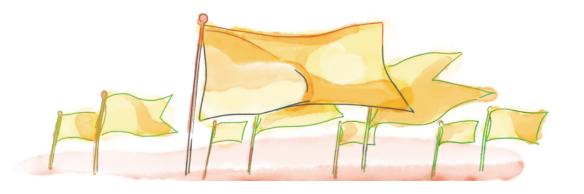
一人ひとりの希望を実装してまわることで、レゾンデートルで描いた 子供達の世代の誰もが希望をもてる社会を造れると確信しています。

2050年に向けたビジョンを実現するため、

JOHNANは3つのミッションを策定しました。

日々の仕事を通じてそれぞれの役割を果たし、

JOHNANはそのビジョンに向かって歩み続けます。





MISSION

未来の製品



想いをカタチにする 「未来の製品 | を届け生かす。

一人ひとりがもつ「こんなものが欲しい」
「あんな体験をしたい」という想い。
それを、ものづくりの知見を集結して組み合わせ、カタチにしたものが、
JOHNANの目指す「未来の製品」です。

巨大な工場や規格化されたラインで量産される製品ではなく、 一人ひとりの希望を汲み取った、オートクチュールなものづくり。 例えば、お客さまご自身がものづくりのプロセスに参加し、 自らの想いをカタチにした製品の完成に立ち会う。 最後のネジの1本を締める。

こうした「Made with JOHNAN」を当たり前にするため、
JOHNANは2050年までに、1,000種類の「未来の製品」を造ります。
想いをカタチにした「未来の製品」は、
お客さまにいつまでも愛され、役に立ち、
その想いを次世代につなぐために、
メンテナンスやリサイクルを通じて生き続けます。
ある一人の実装された希望が、世代を超えて、
くらしや社会の中で生き続けます。

想いをカタチにする「未来の製品」を届け生かすこと。 2050年に向けた、JOHNANの使命です。



KGI

未来の製品:1,000種類 (個人向け7割/法人向け3割)



未来の製品 ~事例~

もう造っています「未来の製品」

JOHNANでは、「JOHNAN VISION 2050」の実現に向けて、さまざまなチャレンジを行っています。 これまでになかった「未来の製品 | の実現に向けた挑戦事例とその成果の一部をご紹介します。

case

革新的な循環器系疾患の 患者見守りシステム

JOHNANでは、ある国立大学からの要望を受け、その大学等 と共に、日本の循環器系疾患の患者さまのために在宅での 見守りシステムを開発しています。患者さまが常に身につける ウェアラブル医療機器で、リモートで患者さまの心音を医師に はっきりと伝え、IoT技術とクラウドの活用により見守りシステム を実現します。患者さまや医師のニーズと、精密な技術が結び ついた「未来の製品」づくりの好事例と言えます。

担当社員から

助けられる命を救いたい、 医師の想いに応える技術開発

医師の身体医療でしか分からないことを、遠隔でもあたかも 医師が目の前にいるかの如く診断できるように、私達は、医師 の身体医療の様子を具体的に理解し、得られるデータをある 特徴に着目して解析し、技術提案を行いました。このプロジェクト を通じて、医師は、些細な患者さまの変化も見逃さない職人 技で、私達の健康と生命を守っているということを改めて実感 しています。こうした医師のもつ職人技(暗黙知)を、形式知と してウェアラブル機器に組み込むことで医師の診断を手助けし、 助けられる命を救いたいという医師の想いに応えられるよう、 私達は開発を進めています。

JOHNAN株式会社 ものづくりプラットフォームカンパニー ヘルスケア事業部

古田博睦/稲森良充/池田和哉



宇宙旅行時代の安全を保証する

JOHNANのX線CT装置は、2050年の宇宙旅行時代を切り拓く部品 検査技術です。現在では、主に重載メーカーからのオーダーにより、 製品の寿命に大きな影響を与えるダイキャストや金属部品の溶接 部分への品質管理に用いられています。宇宙に行き来する時代がくる と、宇宙空間の超低温から大気圏に再突入する場合の超高温を往来 することとなり、金属疲労からくる大事故を防ぐための究極の宇宙 安全品質が要求されます。制御する回路基板や、ADAS(自動運転)に よる未来の移動車両にも、車載品質以上の耐久性が要求されるため、 非破壊で事前もしくは定期的に検査することが必要です。こうした ニーズに応えるJOHNANのX線CT装置は、ロケット部品もリターナ ブルで非破壊的な検査が可能。来たるべき宇宙旅行時代の安全を 保障する部品検査技術として、大きな貢献が期待できます。

てase 現場ニーズと最先端技術を結集した水中ドローン(ROV)によるソリューション提供

水中インフラ点検や環境調査など、水中での作業を必要とするさま ざまな業界分野で活用できる水中ドローン(ROV)「MOGOOLシ リーズ |を扱っています。実際にお客さまの現場まで足を運んでニー ズを把握し、作業課題に応じて、センサーやソナー、グリッパーなど、 豊富なオプションを搭載したソリューションを提供しています。その 成果として「MOGOOLシリーズ」に関する提案内容が「農林水産業 の現場ニーズに対応する技術提案の募集(第2回)|(農林水産省) で採択され、「漂流軽石回収に関する技術・アイデア集」(国土交通 省)にも掲載されています。

担当社員から

地球最後のフロンティア「深海」に向けた挑戦

そもそも海は95%が未解明と言われ、人類にとって未踏の世界 です。本事業の始まりは水中ドローン(ROV)を扱う中国のスタート アップ企業との出会いでした。彼らは日本市場への展開を模索し、 優れた技術を有しつつも品質に課題があったため、私達は何度も 訪中し熱心な品質指導を行いました。その結果、半年かけて日本 市場に適したものへと大きく改善されました。彼らの製品を当社は 水中ドローン(ROV)「MOGOOLシリーズ」と呼び、お客さまが求 める水中作業を実現するために、お客さまと一緒になって新しい オプション機能を組み合わせたり、時には、AIベンチャーを巻き 込んだりと、さまざまな試行錯誤を重ねています。私達は多様な ステークホルダーと共に地球最後のフロンティア「深海」に向け て挑戦を続けます。

JOHNAN株式会社 ものづくりプラットフォームカンパニー MRO事業部

戸﨑 翼





Right to repair (修理する権利) をみんなの手に!

循環型社会の実現に向け、傷んだ部分は直し、製品を長く 大切に使用していくことが求められています。JOHNANでは 老朽化した装置の故障基板を回路図など図面のない状況か ら修理をし、再度使用可能にする「基板修理サービス」を行っ ています。これにより、お客さまは競争力を維持するための 「守りの投資」を抑制することが可能となり、また、環境負荷 低減にも貢献しています。さらに、JOHNANでは修理対応で きない故障にも対応するため、「修理してほしい方」と「修理で きる方 | をつなぐマッチングサービス 「基板修理ドットコム」や FA機器における新古品・中古品が欲しい方と販売したい方を 結ぶビジネスマッチングサイト「FAマーケットプレイス」等を 順次展開・強化しています。ものづくりプラットフォーム企業と して、製品を生み出す部分だけでなく、終焉部分においても、 新しいサービスを開発し挑戦し続けます。





未来の工房



月面から海底まで 「未来の工房 | を造りつなぐ。

「未来の工房」とは、お客さま一人ひとりの想いをカタチにする 「未来の製品」を造るために集まった個性豊かなプロ集団です。

匠の技をもつ職人達が集まった工房や、 最先端技術を駆使するエンジニアとAIで構成される工房。 地上はもちろん、無重力や水圧を利用するために 月面や海底に造られた工房。 仮想空間に造られ、どこからでも参加でき、 お客さまの目の前で設計や試作ができる工房。

JOHNANは、2050年までに1,000の「未来の工房」を造りつなぎます。 その中には、JOHNANの社内工房はもちろん、 同じ志を共有し、共創する外部の工房もあるでしょう。 さまざまな特徴を持った工房達が、空間を超えてネットワーク化され、 必要に応じて力を組み合わせるのが、JOHNANが描く「未来の工房 | です。

月面から海底まで「未来の工房」を造りつなぐこと。 2050年に向けた、JOHNANの使命です。



KGI

未来の工房:1,000工房 (自社内工房3割/共創先工房7割)

もう始めています「未来の工房」

「未来の工房」の実現に向けたJOHNANの挑戦事例とその成果の一部をご紹介します。

case

人の能力を最大限に発揮できる 「未来の工房」への助走

障がい者の雇用創出のための人とロボットが協働する工房づくりが、京都大学とJOHNANとの連携によって進んでいます。 現在は安全柵の設置などの規制はありますが、将来的には人とロボットが同じプースで働くことができる環境の実現を目指しています。この工房では、障がい者やお年寄りがその能力を発揮していきいきと働ける環境を実現するために、苦手とする作業をロボットやAIがサポートする技術の開発を産学連携で行っています。この技術は将来的に一般消費者がものづくりに参画する際にも役立つと考えています。人とロボットの協働の技術開発が進めば、障がい者だけでなく、一般消費者が製品づくりに直接参画できる場の実現にもつながります。産学連携により、作り手と使い手の垣根をなくす、作り手や使い手の想像力を力タチにする「未来の工房」への助走が始まっています。

担当社員から

人の動きから学び、 ユーザーの想いを実装する場を造る

この産学連携のプロジェクトは、障がいのある方々の働きたいという想いをサポートする取り組みから始まりました。人がロボットに部品を渡し、ロボットがはんだ付けした部品を人が組み立てる。単純な動作ですが、精密さと安全確保が求められます。人とロボットが協働するための条件を障がいのある方々から学び、障がいのある方々が希望をもつことのできる社会の実現に結びつけました。将来的にはJOHNANが目指す、ユーザーがものづくりに直接参加し、自らの想いを製品に実装する環境の実現に近づいていくと思います。

JOHNAN株式会社 ものづくりプラットフォームカンパニー ものづくりプラットフォーム研究所 森山 孝三



ase 未来のものづくりを担う **分** 匠達をつなぐ

近年、古い経営常識にとらわれないスタートアップ企業が数多く誕生しています。その価値観と志、独創的な技がJOHNANともシンクロする、スタートアップ企業とのネットワークづくりを始めました。JOHNANとスタートアップ、あるいはスタートアップ同士がつながり、製品を共に開発していくオープンイノベーションが進んでいます。未来のものづくりを担う匠や職人達の想像力、想いを実現するためのモチベーションを高める場を提供し、社会実装のサポートをしています。互いの「工房」がつながることで、協力し合い、それぞれの工房がもつ潜在能力が引き出され、それが「未来の工房」の一つになる。そのための共創活動が芽生えています。

担当社員から

スタートアップと共創協働する場を、 深海や月面にも広げたい

JOHNANは、2018年7月に経済産業省よりStartup Factory 構築事業に採択され、スタートアップと共創協働する場を構築してきました。またバイオデザインプログラム発となっているプロジェクトも進んでいます。スタートアップは、独自の技術力を備えており、ものづくりに対する志をもった職人気質の技術者が多く活躍しています。そうした技術や意欲を生かした製品を目指し、共に造っていくのがJOHNANの立ち位置です。今後は深海や月面などの未知なる領域に挑戦するスタートアップと共創協働する場を、一緒に試行錯誤しながら世界中に、そして深海や月面にまで広げていくのが、未来のJOHNANの仕事です。

JOHNAN株式会社 ものづくりプラットフォームカンパニー MRO事業部

上野 敏寛



未来の工房~事例~

もう始めています「未来の工房」

変化する生産ラインが実現する、 オートクチュールな製品造り

「未来の製品 | を造るにあたり、既成の生産ラインでは対応できな いプロジェクトが発生することも考えられます。そのことを視野に 入れ、JOHNANの工場では、製造する製品に応じて生産ライン自 体を設計し、変種変量など多様なニーズに対応する取り組みを 行っています。また、必要に応じてクリーンルームを立ち上げ、翌日 には違うものを造るためのブースに変えることも。目的に合わせて フレキシブルに変化するラインが、「未来の製品」づくりを現実に します。

担当社員から

想いをカタチにする製品造りに、 空間の設計レベルから対応します

この技術の特長は、ユーザーが参加する製品造りに、生産ライン や空間の設計レベルから対応できることです。最終工程の組付け にユーザーが参加することは安全性や作業環境の面から困難に 思えますが、生産ラインを自由に変えられるJOHNANの生産体制 なら可能です。また、精密な製品を製造するクリーンルームを柔軟 に立ち上げられる技術も、人の想いに応えるしなやかな製品造り の象徴と言えるのではないでしょうか。例えば当社で生産する製品 が最終的に半導体製造などに代表されるクリーン度の高い室内 空間で使用される予定なら、溶剤を使用した拭き上げ清掃、真空 梱包などもすべてクリーンルーム内で対応し、お客さまが短時間 で現場投入できるようにして出荷することができます。JOHNAN ではすでに、標準品とは仕様が異なる特定の取引先専用のスペ シャルオーダー品を多数造っています。世界でただ一つの、オート クチュールを志向するものづくりは、もう始まっています。

JOHNAN株式会社 デザイン&EMSカンパニー 西日本第二事業部 小芝 孝



世界でただ一つの製品を 可能にする部品成形技術

JOHNANでは、自動車生産ラインの部品から、半導体生産ライン の搬送装置の部品や航空機を組み立てる際の足場を造る材料 まで、さまざまな部品を構想設計からマシニングによる加工や 製缶技術を用いて成形しています。多様な産業分野で培われた 部品成形の技術を生かすことで、さまざまなニーズにお応えし ます。お客さまの想いが込められた、世界に一つだけのパーツ を造ることもできるでしょう。「JOHNAN VISION 2050」を支え、 現実にする「未来の工房」の種子がここにあります。

「未来の工房」につながる 京都試作ネット

オープンイノベーションが加速する中、製品・サービスの開発 プロセスにおいて、外部のパートナー企業と共に試作を行う需 要が急拡大しています。JOHNANは、一般社団法人京都試作 ネットの会員企業として、開発試作から量産試作に至るまで、 幅広い産業分野におけるアジャイル開発支援を、他の会員企業 と協力して推進しています。アジャイル開発は、システムやソフト ウェア開発において小単位で実装とテストを繰り返して開発を 進める手法で、従来に比べて開発期間が短く、多様な顧客の ニーズにスピーディに応えられるメリットがあります。一般社団 法人京都試作ネットとのつながりから、「未来の工房」が育ま れる可能性を期待しています。



MISSION

未来の案内人



ものづくりを先導する 「未来の案内人 | を育てふやす。

「未来の案内人」とは、お客さま一人ひとりの想いを聴き、 「未来の製品」完成までの道のりの案内人として、 お客さまと共に歩む人のこと。

そういった姿勢のある人だけが、お客さまの想いを実現するために、 必要な技術をもった工房を探し、最高のチームを造り上げることができる。

JOHNANは、2050年までに1.000の案内人を育てふやします。 1.000の案内人は、すべてJOHNANグループの社員です。 現場のものづくりを担うリーダーや、 その経験を生かしてグループ会社を経営する人、 もしくはグループ内に自らの会社を起こす経営者もいます。 お客さまに尽力する姿勢があれば、 誰でも案内人になれるチャンスがあるのです。

お客さま一人ひとりの想いをカタチにする案内人であることが、 これからのJOHNANで必要な、リーダーや経営者の条件となるのです。

ものづくりを先導する「未来の案内人」を育てふやすこと。 2050年に向けた、JOHNANの使命です。



未来の案内人: 1.000人 (経営者1割/リーダー9割)



未来の案内人 ~事例~

もう活躍しています「未来の案内人」

「未来の案内人 | の育成に向けたJOHNANの挑戦事例とその成果の一部をご紹介します。

case

工場の"お困りごと"から 新製品を生み出す案内人

お客さまとの何気ないコミュニケーションから、新製品を生み出した案内人がいます。そのお客さまの工場では現場から出る油などの汚れを常に清掃する必要がありました。そこで開発されたのが油吸収材「アブラトール」です。この製品は、お客さまのあらゆるニーズに対応するため、社内・社外の幅広いパートナーで編成されたチームが圧倒的な速さで開発しました。現在では、さまざまな形状や性能をもつ100アイテム以上をラインナップしており、工場だけでなく、スーパーや飲食チェーン店などでも使用されています。

担当社員から

ものづくりの現場を 肌身で知っている製品開発

JOHNANは自社で製造工場を稼働しているので、現場の環境を身近に感じています。したがって、現場の油汚れが安全性や作業効率に影響することは肌身で知っています。だからこそ自分ごととして開発できた製品、それが「アブラトール」です。「アブラトール」のような工場副資材(主資材ではない消耗品など)を、お客さまのプライベートブランド品やニッチな特注品の開発など、お客さまの現場の要望を汲み取った製品の開発につなげることができることも、JOHNANならではの価値を発揮できる分野だと考えています。

JOHNAN株式会社 ものづくりプラットフォームカンパニー 戦略・営業マーケティング統括部

藤原 輝政





case

多彩な技術の蓄積を生かした、 お客さまの期待を超えるご提案

JOHNANには、装置も工程もデバイスも造ることができる多彩な技術と、幅広い産業に対応する引き出しがあります。あるお客さまから製品のパリ*取りを相談されたことがあります。お客さまはバリ取り以外にも課題を抱えておられました。案内人の下にメンバーが集い、知恵と意見を出し合うことにより、お客さまに最適な工程レイアウトを提案しました。JOHNANの設備と設備をつなぐ搬送設備は、そのスピードと振動を抑える技術が高く評価されています。将来、案内人が工房をネットワーク化する時には、こうしたJOHNANのチームワークがお客さまの満足を得ることでしょう。

*金属等の加工の際にできる出っ張りや突起物

case 現場のものづくりを導く **3** リーダーを育む

「未来の案内人」の育成を図る試みが、海外拠点でも始まっています。タイのJOHNAN SIAM CORPORATION LIMITED(以下、SIAM)では、基礎的な日本語指導に加えて、整理整頓などの5Sや製造基礎教育、日本の生活習慣や文化も教え、日本と連携した仕事に早く慣れる取り組みを進めています。日本に派遣された技能実習生が、リーダーシップやチームワークの在り方をJOHNANグループ内に構築されたものづくり現場のネットワークで学び、タイに戻ったあとに自らが現場のチームリーダーを務めるといった成長の好循環が生まれています。

担当社員から

「教習所 | から、人を導く「導場 | へ

タイのSIAMはもともと別会社の経営で、かつては社員から「教習所」と呼ばれていました。仕事を覚えたら"卒業"し、ここより良い待遇の会社に転職することが当たり前だったからです。2019年に買収によりJOHNANのグループ企業となってからは、技能実習生への教育をはじめ、高いスキルや意欲をもつ「人材」を育てる姿勢を貫くようになりました。社員のスキルを適正に評価するようになったこともあり、離職率は買収前の29%から2021年には17%へと大幅に改善し、現在は数パーセントにまでなりました。SIAMが、かつての「教習所」から、人を導き成長させる「導場」に変わったことを実感しています。ここから多くの「未来の案内人」が育っていくことに期待しています。

JOHNAN SIAM CORPORATION LIMITED Engineering Dept. Kraiwan Duangsri



「JOHNAN VISION 2050」 策定プロセス

JOHNANは2022年10月に創業60周年を迎えました。

現在は、世界中の多様なステークホルダーと連携しながら事業を行っています。

JOHNANが公器としてますます成長していこうとする過程で、変えてはいけないものと変えていくべきものとを明確にすること、 JOHNANに属するすべての人が、同じ志をもって進むべき道しるべを示すことの重要性を感じ、その策定に取り組んできました。 この結果として生まれたのが、「JOHNANらしさ」であり、「JOHNAN VISION 2050」をはじめとする理念体系です。

役員・社員が共にJOHNANの存在理由や強み、未来に向けて社会のお役に立てることを語らうことは、

普段さまざまな場所で働くお互いを知り、仲間としての信頼を深める機会にもなりました。

2018年3月~2020年6月

JOHNANらしさ探求プロジェクト

2018年、JOHNANが創業以来大切にしていた価値観を発掘し、再 定義を試みる「JOHNANらしさ探求プロジェクト」が始まりました。 創業者である山本松雄から始まり、彼と共に働く仲間達が培ってきた 価値観は、「かこむ・みる・つくる」という3つの視座に結晶化されて います。これこそが「JOHNANらしさ」であることを確認しました。この 価値観は、今回策定したJOHNANの存在理由「レゾンデートル」及び その文言へとつながっていきます。





2020年9月

超長期ビジョン策定プロジェクト始動

社長の山本をリーダーに、JOHNAN京都本社にてプロジェクトの 構想を開始。同年11月より各部署の若手・中堅社員15人を選抜し、 超長期ビジョン策定プロジェクトを立ち上げました。まずはそのメン バーで「JOHNANらしさ探求会」を実施。それから約2年間、職種や 在籍地の違うメンバーが集い拡大して、多様な視点でJOHNANの 未来を検討しました。

プロジェクトメンバーの未来にかける 意気込みをP26でご覧ください!







2021年1月~2021年7月

視座を合わせ 「JOHNAN VISION 2050 の仮説検討

プロジェクトを開始後、ビジョンに関わる情報収集をスタート。新型コ ロナウイルスの感染拡大による影響もありましたが、さまざまな国や 地域のプロジェクトメンバーがオンラインで一堂に会し、個別検討を 含め推計約650時間のディスカッションを重ねました。その時ばか りは日々の業務から離れ、JOHNANの未来やビジョンとは何かを 必死に検討。多様なメンバーだからこそ、互いを知り、視座を合わせ るための重要な時間となりました。4チームに分かれて、各自の仮説 をもって役員にビジョナリーインタビューを行うなど、社長・役員と 社員の想いが重なり合ってプロジェクトが始動しました。



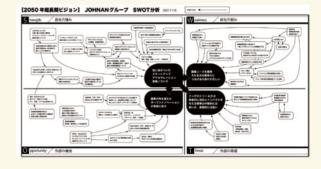




2021年8月~2021年11月

コーポレートレベルのSWOT分析

全役員9人が集まり、経営合宿セッションを開催。2050年やその先 のメガトレンドを踏まえ、JOHNANの強み・弱みをあらゆる観点か ら洗い出し、ディスカッション。その意見を基に、社長の山本自ら管 理職21人にヒアリングを行い、コーポレートレベルのSWOT分析を 実施しました。結果として揺るがなかった点は、JOHNANは「地に 足のついたスタートアップアクセラレーション事業ノウハウ」が最大 の強みであり、さまざまな技術・文化やパートナーによってその強み が支えられているということです。そして強みの裏返しである弱み と、短中長期で打つべき施策が明確化されました。





2021年10月~2022月3月

ものづくりのルーツを探る

「自律的生命論」「自律分散」「コ・クリエーション」「小さきもの・モノ づくり |といった調査資料を基に、JOHNANのルーツエディティング (ものづくりのルーツ研究)を実施。プロジェクトメンバーを中心に、 再度事業部長クラス以上21人にヒアリングを実施し、「JOHNANら しさ | である 「かこむ・みる・つくる | の3つの視座が、ものづくりの ルーツにどのように結びついているかを研究し、この視座がJOHNAN の事業の基盤であることを再確認しました。









2021年12月~2022年1月

「2050ミッション」の仮説検討

次に、JOHNANの事業を支えるサービスを4つに分類し、プロジェ クトメンバーが自身の現場を見つめ、「プラットフォームサービス」「エ ンジニアリングサービス「製造サービス「修理・メンテナンスサー ビス | の今と未来を議論。2050年に目指したいJOHNANのミッ ションについて、検討・発表を行いました。各チームで共通していた のが、作り手にとっても、使い手にとっても、「ものづくりは楽しい」と いうことを、たくさんの人に実感してほしいという想いでした。







仮ミッション※3つの案 ものづくりの民主化を実現し 人々に感動を提供する。 ・ものづくりの自由度を高め 世代を超えた想いをつなぐ。 誰もが創る歓びにアクセスできる

2022年2月~2022年6月

「レゾンデートル |の検討・策定

2012年に策定したミッション「自由と公平と博愛の精神に基づいて、 子供達の世代が希望を持てる社会を造る」に、「JOHNANらしさ」 である「かこむ・みる・つくる」の価値観を付加。理念体系の中の JOHNANの存在理由「レゾンデートル」として再定義し、取締役会に おいて承認され、さらに2022年6月の定時株主総会にて定款変更が 承認され、JOHNAN株式会社の定款第1章第2条に明記されました。



2022年2月~2022年6月

[JOHNAN VISION 2050] 「JOHNAN MISSION 2050」の検討・策定

これまでの研究・議論を踏まえ、JOHNANが「レゾンデートル」に基 づいて、2050年までにどこを目指すか(ビジョン)、何を実現するか (ミッション)を策定。2021年から共に検討してきたプロジェクトメ ンバー、そして取締役会において、本ビジョン・ミッションが承認され ました。その後、今まさにご覧いただいているビジョンブックの企画・ 制作がスタートすることとなります。



ROJECT MEMBER



マシナリー・ソリューション カンパニー マシナリー事業部

岩崎 悠樹

次世代の若手の活気があふれる職場・ 環境づくりを目指していきたい。技術部 門として、若手への技術の伝道師とな れるように邁進していきます。



デザイン&EMS カンパニー タイ事業部

幸田 友似

経営企画本部

林 佑樹

財務経理統括部

プロジェクトメンバーとして関われたこ とに感謝します。「子供達の世代が希望 をもつ社会を造り続ける」関わる一人ひ とりが実感できるよう活動していきます。



マシナリー事業部

上田 憲作

普段とは違う時間軸のことを考える時 間をいただけて良い刺激になりました。 ○○らしさを引き出すツールとして活用 し共感の輪を広げていきたいと考えて います。



ものづくりプラットフォーム カンパニー 戦略・営業マーケティング統括部

神村 紀久子

当社のありたい姿、想いが詰まった 「JOHNAN VISION 2050」が新たな 成長の道標となり、共感する人々が集 うきっかけとなることを願います。



ものづくりプラットフォーム カンパニー リペア部

ものづくりプラットフォーム カンパニー

身近な希望に目を向ける。試行錯誤し

て希望に沿う。一人ひとりの小さな挑

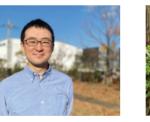
戦の積み重ねが束となり、「JOHNAN

MRO事業部

上野 敏寛

高橋 勇記

プロジェクトの初期から関わらせてい ただきました。発信する者のみが掴む ことができる未来があると信じていま す。VISIONを実現できるよう邁進して



ものづくりプラットフォーム カンパニー 戦略・営業マーケティング統括部

広瀬 圭一

おばあちゃん子の私にとって、本ブック で描かれている青年の姿は、まさに自分 自身でした。主人公になったつもりで 制作に関われたことに感謝しています。



経営企画本部 企画管理統括部 御法川 一広

対話するための本ができました。協力 いただいた延べ40名強、そして事務局 3名の仕事には感謝しかありません。こ れからのJOHNANを理解する・理解し 直す方がふえたとき、その入り口がこの

本であればうれしい限りです。



デザイン&EMS カンパニー 東日本事業部

遠藤 健太郎

2050年にこのブックを手に取った方 が、プロジェクトへ関わったメンバー達 の熱量を少しでも感じて、さらに50年 先のみらいを語る一助になってくれれ ばと願います。



ものづくりプラットフォーム カンパニー MRO事業部

谷口 正悟

今まで全く関わりのなかった方々と会 社の未来に関して語ることができ、今 回の機会は自身にとっての大きな財産 です。皆さま、本当にありがとうござい



ものづくりプラットフォーム カンパニー 戦略・営業マーケティング統括部

宮本 武

車が空を飛び時間旅行するような「未 来」は訪れませんでした。やってきた未 来は現実が重く立ち込めています。だ からこそ、それでも!と踏ん張るための 本を作りました。

発行月 2023年4月1日

プロジェクトに携われたこと、嬉しく思

います。ビジョン実現のため、社内はも

ちろん、ステークホルダーの皆さまから

ご理解・ご支援いただけるよう、先導し

ていきたいと考えていきます

JOHNAN株式会社 超長期ビジョン策定プロジェクト 発行者 統括プロデュース

山本光世

企画·編集 株式会社エッジ・インターナショナル 山本光世、株式会社エッジ・インターナショナル 執筆

アートディレクション/イラスト 方本宮

デザイン制作

同志社大学神学部 教授 小原克博/株式会社リクルート/株式会社編集工学研究所 協力

印刷·製本 ツクヰプロセス株式会社 お問い合わせ先: vision2050@johnan.com

Copyright © 2023 JOHNAN Corporation All Rights Reserved. Printed in Japan

JOHNAN VISION 2050



JOHNAN ORIGINAL ORIGAMI

オリジナル折り紙の作り方

ORIGAMI CONCEPT

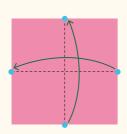
JOHNANで開発したオリジナル 折り紙です。JOHNANのビジョン 「一人ひとりの希望を実装してまわる。」 から「自分らしさを発揮し、つながり 合いながら輝きを生み出す」を イメージしています。

用意するもの

- ●半透明の紙8枚
- スティックのり

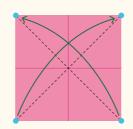
1枚で1つのパーツを折り、8つのパーツをつないで出来上がりです。 1~3で折りすじをつけます。0~ 20でのりづけしながら、パーツの仕上げと貼り合わせをします。



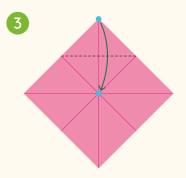


(裏から) 点線で折りすじをつける

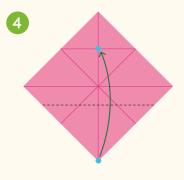




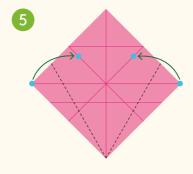
点線で折りすじをつける



中心に向かって 点線で折りすじをつける



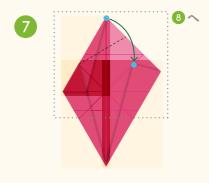
③でつけた線に向かって点線で 折りすじをつける



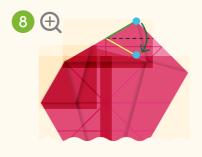
点線で折る



点線で折る



点線で折る



太線と太線を合わせるように 点線で折る



広げる

